

<付表> 中小企業共通EDI実装ガイドライン チェックリスト ver.1.0\_draft 2018-2-21

章	項目	項番	内容	重要度	チェック	備考
				◎必須 ○推奨 △任意		◎対応、○一部対応、△対応可能、 ×対応不可、－回答なし
3章	中小企業共通EDIプロバイダ					
	3.1. EDIメッセージ仕様の実装①	1	共通EDIプロバイダが実装する共通EDIメッセージは国連CEFACTに準拠するXMLスキーマで生成した標準XMLフォーマットでなければならない。 共通EDIプロバイダは共通EDIメッセージのバージョンを明示しなければならない。	◎		
	3.2. オンプレミス業務アプリのデータフォーマット変換①	2	オンプレミス業務アプリと共通EDIプロバイダが交換するEDIファイルはCSVとし、ユーザー業務アプリのCSVファイルデータフォーマットを標準XMLフォーマットに変換するためのマッピングをユーザーが容易に実施するための機能を提供しなければならない	◎		
	3.2. オンプレミス業務アプリのデータフォーマット変換②	3	送信者よりアップロードされた送信CSVファイルのデータフォーマットを送信者のマッピングに基づき、標準XMLフォーマットへ変換する機能を提供しなければならない 標準XMLフォーマットへ変換された送信EDIのデータフォーマットを、受信者のマッピングに基づき、受信CSVファイルのデータフォーマットに再変換する機能を提供しなければならない	◎		
	3.3. オンプレミス業務アプリとの連携	4	中小企業共通EDIプロバイダはオンプレミス業務アプリのCSVファイルを受け渡すために、連携共通I/Fによるフォーマット変換・通信サービスを提供しなければならない。	◎		
	3.3. クラウド業務サービス、他の中小企業共通EDIプロバイダとの連携	5	中小企業共通EDIプロバイダはクラウド業務サービス、他の中小企業共通EDIプロバイダと共通EDIプロトコル・アドレスで接続するサービスを提供しなければならない	◎		
	3.3. 業界EDI接続用ゲートウェイ	6	業界EDIと接続するために通信ゲートウェイを実装する。	△		
	3.4. 送達確認① 受信確認	7	中小企業共通EDIプロバイダは送信者が送信したEDIデータファイルをプロバイダが受信したことを送信者が確認できる機能を備えなければならない。	◎		
	3.4. 送達確認② 受領確認	8	中小企業共通EDIプロバイダは送信者が送信したEDIデータファイルを受信者が受領（ダウンロード）したことを送信者が確認できる機能を備えることが望ましい。	○		
	3.4. 送達確認③ エラー表示	9	中小企業共通EDIプロバイダは送信者が送信したEDIデータファイルの受信、または受領に失敗したときはエラーを送信者に表示し、エラー内容を確認できる機能を備えなければならない。	◎		
	3.4. 送達確認④ Ack情報表示	10	中小企業共通EDIプロバイダは送達確認情報を業務アプリケーションで表示するために、上記3つのAck情報を業務アプリケーションに引き渡す機能を備える	△		
	3.5. 振り分け機能①	11	中小企業共通EDIプロバイダは自社サービス利用ユーザーにユニーク・アドレスを付与し、そのユーザーの存在を保証しなければならない。	◎		
	3.5. 振り分け機能②	12	中小企業共通EDIプロバイダは送信者が指定する受信先のアドレスへ送信EDIファイルを振り分けて送信する機能を備えなければならない。	◎		
	3.6. 認証機能とセキュリティ①	13	中小企業共通EDIプロバイダはユーザー識別のための認証機能を備え、認証手段をユーザーへ明示しなければならない	◎		
	3.6. 認証機能とセキュリティ②	14	中小企業共通EDIプロバイダは適切なセキュリティ機能を備えなければならない	◎		
				重要度 ◎必須 ○推奨 △任意	チェック	備考
章	項目	項番	内容			◎対応、○一部対応、△対応可能、 ×対応不可、－回答なし

章	項目	項番	内容	重要度	チェック	備考
				◎必須 ○推奨 △任意		◎対応、○一部対応、△対応可能、 ×対応不可、－回答なし
	3.7.サービス提供条件①	15	中小企業共通EDIプロバイダは送信したEDIデータファイルの保存期間を利用者に明示しなければならない。	◎		
	3.7.サービス提供条件②	16	中小企業共通EDIプロバイダは稼動時間（無停止、保守時間帯設定あり等）について、利用者に明示しなければならない。	◎		
	3.8.EDIデータ保存①	17	中小企業共通EDIプロバイダは送信されたEDIデータファイルを一定期間保存し、検索して確認する機能を送信者、受信者に提供し、EDIデータファイル保存期間を明示するべきである。	○		
	3.8.EDIデータ保存②	18	電子帳票保存法に適合するEDIファイル保存サービス提供が望ましい	△		
	3.9.EDIデータファイル新着連絡	19	中小企業共通EDIプロバイダは受信者にEDIデータファイルの新着を連絡する機能を提供すべきである。新着連絡機能を提供する場合は連絡手段を明示すること	○		
	3.10.ファイル添付	20	中小企業共通EDIプロバイダはEDIデータファイルにファイルを添付して送信する機能を提供することが望ましい。中小企業共通EDIプロバイダは添付ファイル送信の可否、および添付ファイル送信方式を明示しなければならない	○		
	3.11.発注者帳票の送達①	21	中小企業共通EDIプロバイダは送信者の帳票ファイルを受信者がダウンロードする機能を提供すべきである	○		
	3.11.発注者帳票の送達②	22	中小企業共通EDIプロバイダは汎用プリンタで発注者の帳票ファイルを自動印刷する機能を提供することが望ましい	△		
4章	業務パッケージ					
	4.1.業務アプリに共通の相互連携性仕様	23	中小企業共通EDI情報基盤と接続して相互連携性サービスを提供する業務アプリは、中小企業共通EDI標準仕様書に規定する情報項目を実装しなければならない。	◎		
	4.2.EDIデータファイルのエクスポート機能①	24	中小企業共通EDIプロバイダと接続するオンプロミス業務アプリケーションは中小企業共通EDIメッセージ仕様のCSVファイルをエクスポートする機能を備えなければならない	◎		
	4.2.EDIデータファイルのエクスポート機能②	25	パッケージとして市販されるオンプロミス業務アプリケーションはエクスポートできる中小企業共通EDIメッセージの拡張版仕様と取引情報種、情報項目を明示しなければならない	◎		
	4.2.EDIデータファイルのインポート機能①	26	中小企業共通EDIプロバイダと接続するオンプレミス業務アプリケーションは中小企業共通EDIメッセージ仕様のCSVファイルをインポートする機能を備えなければならない	◎		
	4.2.EDIデータファイルのインポート機能②	27	パッケージとして市販されるオンプレミス業務アプリケーションはインポートできる中小企業共通EDIメッセージの拡張版仕様と取引情報種、情報項目を明示しなければならない。	◎		
	4.2.EDIデータファイルのフォーマット①	28	CSVファイル各行のデータは一件ごとに1行とし、EDIデータ以外のデータ行が存在してはならない	◎		
	4.2.EDIデータファイルのフォーマット②	29	多品一業形式のCSVファイル各行のデータフォーマットは、ヘッダ部データ+明細部データの構成でなければならない	◎		
	4.2.EDIデータファイルのフォーマット③	30	CSVファイル各行の情報項目データの配列順については自由であるが、パッケージ業務アプリケーションについてはマッピング情報をEDIプロバイダーと共有することが望ましい	△		
章	項目	項番	内容	重要度	チェック	備考
				◎必須 ○推奨 △任意		◎対応、○一部対応、△対応可能、 ×対応不可、－回答なし

章	項目	項番	内容	重要度	チェック	備考
				◎必須 ○推奨 △任意		◎対応、○一部対応、△対応可能、 ×対応不可、－回答なし
	4.2.EDIデータファイルのファイル名①	31	中小企業共通EDIプロバイダとオンプレミス業務アプリケーションが交換するEDIファイルは上書防止のためにユニークなファイル名を付与しなければならない。	◎		
	4.2.EDIデータファイルのファイル名②	32	中小企業共通EDIプロバイダとオンプレミス業務アプリケーションはユニークな名称を付与されたEDIデータファイルを処理できないといけない。	◎		
	4.3.異なるクラウド業務アプリ、およびオンプロミス業務アプリとの連携機能	33	クラウド業務アプリが異なるクラウド業務アプリ、またはオンプロミス業務アプリと中小企業共通EDIメッセージで連携する場合は次のいずれかの方式によらなければならない。 【方式1】 中小企業共通EDIプロバイダ機能を併設する 【方式2】 連携する中小企業共通EDIプロバイダと共通EDIプロトコルで接続し、標準XMLフォーマットの中小企業共通EDIメッセージでEDIデータ交換する	◎		
	4.4. EDIデータの文字コード属性	34	業務アプリケーションが中小企業共通EDIプロバイダと交換するEDIデータファイルの文字コードはUnicodeのUTF-8でなければならない	◎		
	4.4. EDIデータの日時様式属性	35	EDIデータの日時様式はXMLスキーマ様式による。YYYY-MM-DD/hh:mm:ss	◎		
	4.4.EDIデータの桁数属性	36	連携業務アプリケーションはエクスポート、インポートするEDIデータ情報項目の桁数を公開して明示するべきである	○		
	4.4.EDIデータの繰り返し属性	37	中小企業共通EDIプロバイダは繰り返し情報項目を扱えるマッピング表を提供するべきである。 中小企業共通EDIプロバイダはマッピングされた複数の情報項目をXMLスキーマの繰り返し構造へ変換する仕組みを提供しなければならない	○		
	4.4. CSVファイルEDIデータの「,」チェック機能	38	連携業務アプリケーションはEDIデータをエクスポートする際に、データに「,」が含まれていないかをチェックし、「,」が含まれている場合は警告を発する機能を備えるべきである	○		
5章	5.3.1.連携共通I/Fサービスの実装要件	39	中小企業共通EDIプロバイダはユーザーが中小企業共通EDIプロバイダのWEBサイトにログインした時、連携共通I/FモジュールをユーザーPC環境へ自動的に挿入するサービスを提供しなければならない。	◎		
	5.3.2.連携I/Fフォルダの実装仕様	41	① 連携I/Fフォルダは取引プロセス毎に実装する ② 連携I/Fフォルダはデフォルトパス／フォルダ名で実装しなければならない ③ 連携I/Fフォルダは連携エージェントとの間でCSVファイル交換機能を実装する	◎		
	5.3.2.連携エージェントの実装仕様	42	連携エージェントはEDIファイルを中小企業共通プロバイダとの間で送受信する機能を実装する。 連携エージェントはEDIファイルを連携業務アプリのCSVファイルにフォーマット変換し、連携I/Fフォルダとの間で受け渡す機能を実装する。	◎		
	5.4.オンプレミス業務アプリの連携共通I/F実装仕様①	43	EDI送信する業務アプリは、送信EDIファイルを規定フォーマットのCSVファイルでエクスポートし、エクスポートした送信CSVファイルに対応する取引プロセスの連携I/Fフォルダへ移動する機能を実装しなければならない。	◎		
	5.4.オンプレミス業務アプリの連携共通I/F実装仕様②	44	EDI受信する業務アプリは連携I/Fフォルダから規定フォーマットの受信CSVファイルを取込み、業務アプリにインポートする機能を実装しなければならない。	◎		
	5.4.オンプレミス業務アプリの連携共通I/F実装仕様③	45	社内のPCを直接インターネットへ接続することを制限しているユーザー企業に対応するために、中小企業共通EDIプロバイダは連携I/Fフォルダのパスを任意に設定できる機能を提供することが望ましい。	○		